

# 東京形成歯科研究会 &インプラント国際情報

H.23.4.21 (THU)  
No.10

原稿募集中

発行

編集 東京形成歯科研究会  
企画 オクデラメディカル  
発行者 奥寺元

東京都北区王子2-26-2-3F  
TEL 03(3919)5111  
FAX 03(3919)5114  
E-mail: okudera@carrot.ocn.ne.jp  
http://www.tpdimplant.com/

## 東京形成主管のISBB会議が盛会裡に終了する!!

この度私は、2月10、12日の3日間、横浜にて開催された、国際血液生体材料臨床応用会議 (ISBB SYMPOSIUM) に参加させて頂きました。スケジュールは、初日が神奈川歯科大学付属横浜研修センターにて認定試験。2日目は、横浜国際展示場パシフィコ横浜にてのシンポジウム。そして3日目は同会場にて日本口腔インプラント学会関東甲信越支部大会ワークショップ参加と盛りだくさんの内容でありました。

初日の認定試験では参加者が各々の症例をポスター形式で発表し、試験官とのディスカッション形式で試験が行われました。試験には数多くの先生方が参加され、100人以上が収容できる会場の壁一面にびっしりと貼られ、またロビーに別に展示される場所を設けなければならぬ程のポスターの数には圧倒されてしまいました。改めてこの分野に対しての私たち歯科医師の関心の高さがうかがえました。

2日目は、国内外の第一線で活躍される12名の先生方の数々の貴重な講演が、各種血液Growth Factor 基礎と研究の現状、臨床の実際の二つの項目に午前・午後の二部構成で行われました。また昼にはランチョンセミナー形式で別会場に前日発表した症例のポスターを展示し、著名な先生方と自分の症例についてディスカッションを行うことができました。当日は雪が降る中、朝8時半から夜7時過ぎまでの長時間にわたり、大変白熱した内容のシンポジウムとなりました。

3日目は、国際的な権威であるRichard Kraut, Nordquist, Henry SUの3名によるセミナーが日本口腔インプラント学会関東甲信越支部大会ワークショップで体験できました。私自身はこのような場において、症例をポスターで発表した経験は一度もなく、参加を決意したもの、実際どのように準備すればよいか多くの不安を抱えていました。しかし東京形成歯科研究会の先生方からご指導、ご協力を頂き、無事に試験当日を迎えることができました。特に奥寺先生にはお忙しい時間を割いて頂き、何度か直接指導をして頂きました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。私のような若輩者にもこのような機



会議会場風景



ポスター認定試験風景

会を与えて頂ける東京形成歯科研究会に参加できて本当に良かったと思っています。今後とも会の活動を通して、自身の研鑽を深めていきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

東京形成歯科研究会 高木博忠

国際血液生体材料臨床応用会議 (ISBB SYMPOSIUM) と  
日本口腔インプラント学会関東甲信越支部大会報告

血液成長因子の  
臨床研究目指す

ISBBがシンポ

日本歯科新聞より

2011年 (平成23年) 2月22日 (火曜日)

第1684号

(7)

血液成長因子の臨床研究を目指す  
ISBBがシンポ  
血液成長因子の臨床研究を目指す  
ISBBがシンポ  
血液成長因子の臨床研究を目指す  
ISBBがシンポ



午後からは臨床の  
実際について、中華  
民国植体学会の  
Sebastian  
Tseng前理事長が  
「台湾における先  
駆的インプラント  
臨床」、明海大学口腔  
顎顔面外科の嶋田  
淳教授が、血液の成  
長因子臨床でのGB  
Rとインプラント応  
用などについて説明  
した。

シンポジウムは午前と  
午後の2回に分けて行わ  
れ、午前は各種血液の成  
長因子の基礎と研究の現  
状をテーマに、海外講師  
のフランスのWHOコン  
サルタント、Dr. Thie  
rry Burnoufが「欧  
州の研究の現状」、台湾  
大学のPeng-Hwei  
Lin教授が「繊維性接着  
による軟組織再生の実  
際」などで話した。  
また、東京医科歯科大  
学の石川烈名誉教授は  
「歯周における組織再生  
の臨床」と題し、歯根細  
胞をシート状にして移植  
させる歯周再生治療が動

同会議の日本事務所代  
表の奥寺元氏は、「世界に  
先駆けて成長因子の臨床  
向けの実践ワークショップ  
を開催できたことはこ  
れからの組織再生学の  
大きな布石になる」と訴え  
た。

### コラム

この度の東北地方太平洋沖大地震により被害を受けた皆様様に心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の国家的大地震で、社会環境への影響や医学的影響について踏み込んだ見解を各人持っている事と思います。今後、戦後復興のように公共事業が活性化されますが、私共の第3次産業は、今までも冷えているのに増々歯科は取り残されます。それは先の大戦で戦後復興が行われたのですが、歯科はようやく昭和50年代になって近代歯科の波が動きはじ

めた経緯があります。しかし、今回はその復興に乗り遅れないように活動しなければなりません。政府や歯科医師会が生命維持のための口腔機能や口腔ケアについての認識が高ければ打つ手はあります。

インプラント学会も、より社会的認識を持たなければならぬのです。が、何と言ってもインプラント歯科治療はホームドクターの性格である事が重要で、今回の震災でより解った事と思います。いくらPRで遠方から集めてもフォローは出来なく患者の為に出来ないことを!!

奥寺元 記



A black and white portrait of Dr. Y. Nakamura, a man with dark hair, wearing a striped shirt and a dark tie. He is smiling slightly. The background is a collage of scientific papers and diagrams, including one titled 'Alveolar Bone Regeneration'.

投げはお見事でした。景品獲得なり〜です。あまりに楽しい江戸村を予定より30分遅れで出発し、北関東自動車道で茨城県那珂湊へと一直線。待っていたのは美味いお寿司の昼ご飯。バダー先生はウニを眺め回した後、他の先生に譲っておられました。海外の方の目には本場の寿司はかなり珍しく写られたようです。食事を終えて、潮の香りっぱいの魚市場へ。皆様色々な海鮮食品を購入されていきました。立派な蟹やお魚は購入意欲をそられるものでした。鯨岡先生はここで素敵な奥様がお迎えに来て皆様とお別れになりました。一行は銚田町へ最後のイベントとなるイチゴ狩りへ。お寿司でお腹はいっぱいでしたが、美味しいトチオトメにメロメロ。ピニールハウスを奥へ奥へと食へ進みました。

楽しかったツアー  
イベントも終わり、  
バスは成田空港へ。  
皆様、素晴らしい思い出とお土産をかかえて家路に着かれた事と思われます。皆様、本場にありがとうございました。



## 東京形成歯科研究会会員

今回、2010年9月17、18、19日に札幌で開催された第40回日本口腔イン

鳥村 亜矢

このような貴重な機会を与えて下さった奥寺先生に本当に感謝致しております。今回の経験を今後の臨床にも応用できるよう、今後も励みたいと思います。

本当にありがとうございました。

世田谷区開業  
江崎 友大

で行われるため、それも一緒に聴講できるためとても勉強になりました。これから後に私達もインプラント認証医や専門医の認定試験等を受ける事になると思いますが、それらの指標となり、大まかな過程を知る事ができとても勉強になりました。

東京形成歯科研究会は奥寺 元先生、小嶋榮一先生を中心として学びの精神がとて高く、色んな事にもチャレンジする精神が旺盛である事が解りました。これからもこの東京形成歯科研究会に参加して色々な事を学び吸収し、自らも積極的に自分の行っ



たインプラント臨  
床等を発表し、明  
日からの歯科医療  
インプラント治療  
のレベルアップを  
行って行きたいと

思っています。本  
当に1年間ありが  
とうございました  
心より感謝致しま  
す。



恒例の懇親会にて

## 『ケースプレゼンテーション試験を終えて』

東京形成歯科研究会会員  
館林市勤務 石井 将之



東京形成歯科研究会に入会後3年目にして、念願のケースプレゼンテーション試験を受ける事ができました。

思い返せば4年ほど前、日々の臨床における自分の成長の行き詰まりを感じていた頃、日本口腔インプラント学会の認証医試験の存在を知りました。勉強する環境に身を投じ、認証医試験に挑戦してみようと思っていました。数ある認定施設の中でどこに入会したらよいのか分かりませんでした。そんな時、塩路先生が主催するOZの会で、奥寺会長が講演されたのをたまたま受講する機会があり、それがきっかけで東京形成歯科研究会の存在を知り、認定講習会(100時間講習)を受講する事になりました。当時の認定講習会は講習期間が2年制から1年制に変わる移行期であり、どちらかを選択する事が出来ました。どうせ同じ受講料ならと沢山勉強できる2年間の方を選びましたが、日曜日を返上しての群馬(館林)から王子までの通学は大変でした。しかし、毎月何かひとつでも身につく事があればと思い通い続け、ケースプレゼンテーション合格までたどり着きました(原稿作成時は認証医申請前)。

講習会の講師陣はバラエティーに富んでいて、基礎から臨床まで幅広く、毎月勉強になりました。中でも一番記憶に残っているのは東京歯科大学解剖学講座の井手教授の講義です。それまで2次的に骨、筋肉、血管の位置をなんとなく理解していたのですが、その講義では頭蓋骨の模型とユーティリティーワックスを使って3次的に解剖を教えて戴きました。「目から鱗がおちる」ような思いで解剖を再確認する事ができると同時に、解剖を知らないで安易にインプラント埋入手術をする事の危険性を感じました。

今回ケースプレゼンテーション試験を受けるにあたって、事前抄録の書き方、ポスターの作り方、発表の仕方等、面白いくらい充実した受験勉強が出来ました。また、インプラント臨床について改めて勉強しはじめると、意外とうやむやになっっている事が多く、初心に帰って学術誌を読み直しました。また、予演会において、多くの先生方の的確なアドバイスを受ける事ができ、ケースプレゼンテーション試験で同様の質問をされても、臆せず答える事が出来ました。

最後に、不勉強な私をいつも暖かく指導してくれました奥寺会長に大変感謝しております。認証医の名に恥じないよう日々研鑽して、患者さんにより良い歯科医療を提供していきたいと思います。ありがとうございました。

## ドイツ留学記

東京形成歯科研究会会員 鯨岡 創一郎



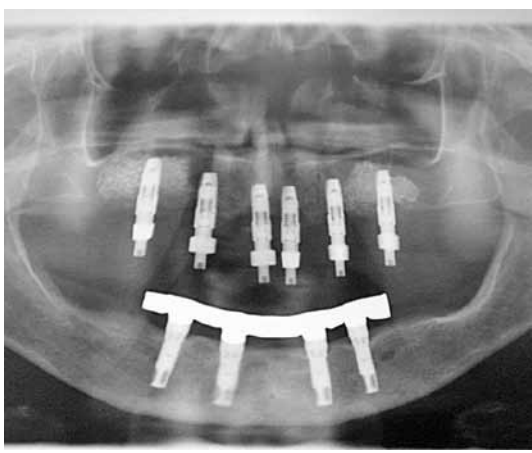
私は2010年9月より、ドイツバイエルン州 Erlangen という街の Friedrich-Alexander University of Erlangen-Nuremberg(フリードリヒ・アレクサンダー大学エランゲン＝ニュルンベルク)により所属し、主に毎日をインプラントオペ、補綴診療の臨床研修に励んでいます。

Friedrich-Alexander University of Erlangen-Nuremberg(以後エアランゲン大学)はバイエルン州第2の規模を持ち、11の学部、265の講座があります。学生数は、24,600名、海外からの留学生は、およそ2,500名程度、教職員は、総数で10,000名以上に及び、バイエルン州では第2位の規模を誇ります。

今回お世話になっている医局は口腔顎顔面外科診療科で主任教授は Prof. Dr. med. Dr. med. dent. Dr. h. c. Friedrich W. Neukam 専門外来は、腫瘍外来、顎顔面外科形成外来、頭頸部外傷外来、インプラント外来、唇顎口蓋裂外来、顎関節症外来、顔面形成外来からなり Prof. Dr. F. W. Neukam を先頭に Prof. Dr. Dr. Nkenke、PD. Dr. Dr. Schlegel の二人の教授、その他8名の医局員、計11人で構成されています。年間手術症例数は約1300で病棟は45床あり、インプラントオペに関しては毎月20前後のインプラント埋入、サイナスリフト、骨造成などのオペがあります。私の毎日は朝のミーティングから始まり、3〜5症例のインプラントオペを見学し、午後は補綴科の Prof. Dr. Manfred Wichmann, Prof. Dr. med. dent. Stephan Elmer, PD. Dr. med. dent. Stefan Holst のインプラント関連の補綴治療を見学しています。インプラントオペが無いときは手術室での前腕皮弁、肩甲骨皮弁、腓骨皮弁による口腔癌再建手術や腸骨



を使用した顎骨再建手術、眼窩底骨折などの中顔骨折症例等様々な手術を見学しています。文化の異なる所へ実際に自分で行き体験することで、生活習慣の違い、言語の違い、どれもこれも日本とは違い新鮮で色々と考えさせられるものがありました。技術もそうですが、やはり海外という環境に一年間自分で生活するというのは素晴らしい経験だと思っています。ドイツ留学を紹介して下さった大学時代の恩師でもある飯島守雄先生、奥寺先生を始め様々な方に面倒を見て頂いたりして不自由無く生活できています。残りの半年を充実した物になるよう毎日を精一杯頑張っていこうと思います。



### ある会員からのアドバイス

骨膜下インプラントの威力と存在意義は成功している実物を見た事が無い先生達には理解がたいと思います。日本のほとんどの指導者の先生達が大学で骨膜下インプラントに対して良い事を教えていないため(撤去が大変だと言うイメージしか無いようです)。、歯科医師にとつての大変さだけを問題にして、患者さんが手にする成果を見ていないと思われます。昔は、インプラントをする歯科医は奇異の目で見られたそうですが、そのような先輩達がいながら現在のインプラントがあるのに。また、同じ事が繰り返されている。かつて、自分自身も骨膜下インプラントについては、昔の技術で失敗が多かったと習っています。大学教育の中である意味、洗脳を受けているようなものでした(私自身もそう思っていました)。東京形成で教育を受ける前までは)。現状の大学教育やインプラントに対する一般の歯科医師の認識度からして、個人的反対者に何を働きかけても逆効果にしかならないような気がします。

今後、企業コミュニケーション達の患者さんの中だけでなく、日本中から多くの失敗例が出て、新生骨膜下インプラントで救済する時期が来る事は十分考えられるので。今でもあると思います。何もしなくても新生骨膜下インプラントを必然的に認めざるを得なくなるのではないのでしょうか。



平成 23 年度東京形成歯科研究会主催、  
(社) 日本口腔インプラント学会認定講習会日程表

第100回日本美容外科学会

The 100<sup>th</sup> Congress of Japan Society of Aesthetic Surgery (JSAS)  
The 22<sup>nd</sup> Congress of Korean Society of Aesthetic Surgery (KSAS)  
The 9<sup>th</sup> Congress of Eastern Cosmetic Surgery (ECS)



会期：2011 年 7 月 23 日 (土) ～ 24 日 (日)  
会場：ホテルオークラ東京

International Academy of Maxillo Facial Cosmetic surgery  
国際口腔美容外科アカデミー認定試験

老齡化社会が進み、QOLが重視されている今日、人はいつまでも健康で美しい人生を送りたい、それが万国人類の願望である。アンチエイジングという概念が世界的な広がりを見せている昨今、さまざまな医学分野のコラボレーションが必要不可欠となり、それは人々に現実味ある医療を提供することが可能となりました。

長い歴史と各分野多数が参加する最大かつ権威ある“日本美容外科学会”との連携により、歯科医学がより進化し、これからの歯科美容外科は単に歯冠の審美や漂白、矯正に止まらず、顎顔面の再構成、生理的回復即ち、歯科領域のアンチエイジングまで踏み込んだ学問を追及・研究すべきだと考えます。顎顔面美容外科における環境は、従来型の補綴治療の誘導や、口腔外科のみではなく顎再建と保全が可能な“口腔インプラント”がその根幹となり、その英知を結集して社会貢献することが“国際口腔美容外科アカデミー”の創立趣旨で活動しております。この度、認定医精度発足により認定医試験を開催する事になりました。

第 100 回日本美容外科学会連携  
国際口腔美容外科アカデミー認定医試験  
試験日：2011 年 7 月 23 日 (土)・24 日 (日)  
会場予定：ホテルオークラ東京  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-10-4 ホテルオークラ東京・本館  
TEL：03-3582-0111 <http://www.hotelokura.co.jp/tokyou/index.html>  
試験内容：顎顔面口腔美容外科に関わるポスター試験  
受講料：60,000 円



顎顔面口腔部会 コーディネーター  
国際口腔美容外科アカデミー代表：奥寺元

|    | 予定日程                    | 講師                    | 時間 | 研 修 内 容                               |
|----|-------------------------|-----------------------|----|---------------------------------------|
| 1  | 4 月 24 日 (日)            | 東海林 芳郎 先生<br>古澤 利武 先生 | 8  | 総合歯科医療<br>診療と診査                       |
| 2  | 5 月 22 日 (日)            | 小嶋 榮一 先生<br>奥寺 元 先生   | 8  | インプラントの歴史<br>より簡便に行われるインプラント治療        |
| 3  | 6 月 19 日 (日)            | 越智 守生 先生<br>桃井 保子 先生  | 8  | インプラント補綴について<br>最近の保存学の考え             |
| 4  | 7 月 10 日 (日)            | 加藤 仁夫 先生<br>笹倉 裕一 先生  | 8  | インプラントの安全と治療<br>骨造成の手法と一般的外科治療法       |
| 5  | 8 月 28 日 (日)            | 田中 譲治 先生<br>水木 さとみ 先生 | 8  | インプラント (上部構造)<br>デンタルコミュニケーション        |
| 6  | 9 月 11 日 (日)            | 小笠原 久明 先生<br>香月 武 先生  | 8  | 咬合再構成の顎咬合学<br>口腔外科手術の基本と実技            |
| 7  | 10 月 23 日 (日)           | 田川 清 先生<br>中川 寛一 先生   | 8  | 私のインプラント臨床<br>歯の移植と再植                 |
| 8  | 11 月 20 日 (日)           | 古川 清 先生<br>井上 孝 先生    | 8  | オクルージョン<br>医療安全、病態論 (口腔検査)            |
| 9  | 12 月 18 日 (日)           | 福田 謙一 先生              | 8  | 口腔インプラント手術における危機管理<br>救急蘇生・鎮静法 (実習予定) |
| 10 | 平成 24 年<br>1 月 22 日 (日) | 西條 英人 先生<br>松尾 雅斗 先生  | 8  | 全身管理と顎再建<br>インプラント治療に係わる臨床解剖学         |
| 11 | 2 月 19 日 (日)            | 中川 勝洋 先生<br>奥寺 元 先生   | 8  | 保険とインプラント<br>社会インプラント歯科学              |
| 12 | 3 月 25 日 (日)            | 木本 一成 先生              | 8  | 論文の書き方・専門医の道<br>総まとめ                  |
|    |                         | 研修時間合計                | 96 |                                       |

※ 講師の都合上、変更になる場合もございますので、予めご了承下さい。  
※ その他講演会・Live Surgery・予演会・研究・座談会等も多彩に行われます。

「東京形成歯科研究会 30 周年記念誌出版について」

永末書店との話し合いが進みまして、出版の見通しとなりました。記念誌のタイトルは私共が取り組んできたインプラント研究の症例で、

「顎骨の再生と保存の意義」(仮称)

ーインプラントにおける機能回復とアンチエイジングー

として、各会員のテーマ症例を持ち寄り出版したいと思います。今までにない内容で、歯科界の将来を担う画期的内容と考えています。日程は下記の通りとなっておりますので、2011 年 10 月 4 日までに症例の提出をお願い致します。症例と原稿は学会と異なり、個人の主義主張を重んじます。

出版日程表  
30 周年記念本 スケジュール

|                 |   |          |
|-----------------|---|----------|
| 2011 年 4 月 25 日 | 月 | 執筆依頼     |
| 10 月 14 日       | 金 | 集稿期限     |
|                 |   | 編集作業     |
| 2012 年 1 月 6 日  | 月 | 初校作成     |
| 1 月 23 日        | 金 | 初校出し     |
| 2 月 6 日         | 月 | 著者校正戻し   |
| 2 月 8 日         | 水 | 編集作業     |
| 2 月 20 日        | 月 | 再校作成     |
| 3 月 2 日         | 金 | 再校出し     |
| 3 月 12 日        | 月 | 著者再校戻し   |
| 3 月 12 日        | 月 | 編集作業     |
| 3 月 23 日        | 金 | 三校作成     |
| 4 月 9 日         | 月 | 三校出し・色補正 |
| 4 月 13 日        | 金 | データイン    |
| 4 月 23 日        | 月 | プルーフチェック |
| 4 月 27 日        | 金 | 下版       |
| 5 月 14 日        | 月 | 出来       |

ISBB WORKSHOP 2011 IN TAIPEI TAIWAN



血液生体材料応用・幹細胞治療  
国際ワークショップ

Blood Biomaterials: From the lab to the patients

参加者：国際有名血液専門家、幹細胞研究学者

日 時：2011 年 7 月 7 日 (木) ～ 9 日 (土)

開催地：国立陽明大学 台北

Keynote Speakers

Augustinus Bader,  
Leipzig University,  
GERMANY  
Therry Burnouf,  
WHO consultant  
FRANCE  
Shohei Kasugai,  
Tokyo medical  
Dental University  
JAPAN  
Su-Guam Kim,  
Chosun University,  
KOREA  
Masahiro Saito  
Tokyo University of Science,  
JAPAN

Sponsored by:

International Society of Blood  
Biomaterials (ISBB) National  
Yang-Ming University  
Cosponsored by:  
World Federation of Preventive  
and Regenerative Medicine  
(WFPRM)  
International Society of Blood  
Biomaterials, Japan (ISBB, Japan)  
National Health Research  
Institute (NHRI)  
Tokyo Plastic Dental  
Association

國立陽明大學  
NATIONAL YANG-MING UNIVERSITY

The Admission Office | Office of International Affairs  
No.155, Sec.2, Linong St., Beitou District, Taipei City 11221, Taiwan (R.O.C.)  
Tel: 886-2-2826-7000 #2244 Fax: 886-2-2823-3887 E-mail: tyju@ym.edu.tw Website: www.ym.edu.tw/oia

■ お問い合わせ：国際血液生体材料臨床応用会議日本事務局  
〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2-3F 王子歯科美容外科クリニック内  
代表 奥寺 元  
TEL：03-3919-5111 / FAX：03-3919-5114 / E-mail：okudera@carrot.ocn.ne.jp  
■ ISBB 国際血液生体材料臨床応用会議認定組織再生臨床医試験申込受付中